

中学校第1学年音楽科学習指導案

指導者 岩瀬 倫子

1 題材名 アルトリコーダーの音色を感じて演奏しよう

2 題材の目標

アルトリコーダーの構造や奏法を知って音色をとらえ、基礎的な奏法を身に付けて演奏する。

3 指導にあたって

本題材は、器楽活動に親しむとともに、楽器の特徴をとらえて基礎的な奏法を身に付け、演奏することをねらいとしている。リコーダーは、管に息を通すだけの原始的で素朴な発音方法でありながら、柔らかく温かみのある音色で芸術性の高い表現が可能な楽器である。また、運指やタンギングなどの演奏技能の習得が易しく、誰にでも演奏しやすいことから、中学生にも親しみやすく、「演奏することができた」という満足感を十分に得ることができる。

本学級の生徒は、明朗で音楽に対する関心が高く、表現したり聴取したりすることに主体的に取り組むことができる。下記の調査からは、生徒たちの器楽に対する関心が高く、主体的に学習に取り組めることが予想される。小学校ではソプラノリコーダーの奏法を既習していることから、ほとんどの生徒が基本的な指運びや息遣いを習得しており、自信をもって表現に臨むことができると考える。また多くの生徒が、より美しい音色で演奏したいと願っていることも着目すべき点である。

(生徒の実態調査 計24人)

Q1	楽器を演奏することは好きですか。	はい(22人)	いいえ(2人)
Q2	ソプラノリコーダーを演奏することができますか。	はい(20人)	いいえ(4人)
Q3	アルトリコーダーの学習でどんなことができるようになりたいですか。(1つ選択)		
	・きれいな音で吹けるようになりたい(15人)		
	・友達と合奏したい(5人)		
	・正しい指遣いを覚えたい(4人)		

そこで本題材では、アルトリコーダーの豊かな音色や響きの美しさを十分に感じ取らせ、意欲的に演奏に取り組めるように指導したい。また、中学校で初めての器楽分野の学習となるので、楽器演奏の基礎となる正しい姿勢や指遣い、息遣いなどを確実に定着させたい。さらに、基本となる奏法を身に付けることと並行して、生徒の願いである「美しい音色で表現するための方法」をグループによる話し合いで追究しながら、器楽表現の楽しさや演奏する喜びを味わわせたい。

4 教材について

教科書「中学器楽 音楽のおくりもの」(教育出版)から4曲を用いた。いずれもハ長調に編曲されており、初歩学習者の技能や表現力の向上に適している。

「足なみそろえて」(金子 健治作曲)

左手のみで演奏できるドからソまでの間で、順番に上行したり下行したりする部分の多い易しい曲である。初めてアルトリコーダーを手にする生徒でも、自信をもって演奏することが可能である。

「聖者の行進」(アメリカ民謡 金子 健治編曲)

この曲も左手のみで演奏することができる曲である。生徒にとって幼い頃から耳になじんだメロディであり、意欲的に演奏に臨むことができると考える。曲の入りの4分休符の感じ方と、全音符で長く息を吐くことに留意して練習させたい。

『少年時代』から」(井上 陽水 平井 夏美作曲 勝田 昭子編曲)

歌謡曲の編曲ということもあり、生徒たちが大変好む曲である。低音のシの運指と、低音を吹くときのタンギングや息のスピードの調節の仕方を身に付けさせたい。

「虹の彼方へ」(アーレン作曲 勝田 昭子編曲)

4曲の中では最も音域が広く、跳躍も多い曲で、初歩的な練習の集大成となる曲といえる。特に、高音でのサミングや息遣い、高音のシと低音のシの運指の違いを正確に身に付けさせたい。

5 題材の評価規準及び学習活動における具体的評価規準

	ア音楽への関心・意欲・態度	イ音楽的な感受や表現の工夫	ウ表現の技能
歌唱			
器楽	○	○	○
創作			
鑑賞			
題材の評価規準	アルトリコーダーの音色や奏法に関心を持ち、それらを生かして主体的に演奏に取り組もうとしている。	アルトリコーダーの音色の美しさや、奏法の特徴とその効果を知覚・感受し、楽曲にふさわしい表現の仕方を考えて、自己の演奏に生かしている。	アルトリコーダーの構造や奏法を知って音色をとらえ、基礎的な奏法を身に付けて演奏している。
学習活動における具体的評価規準	① アルトリコーダーの構造や奏法を知って音色をとらえ、基礎的な奏法を身に付けて演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。	① 美しい音色とはどのようなものかを知覚し、言葉で表現している。 ② 美しい音色を出す方法を見つけようと、いろいろな演奏の仕方を試している。	① 正しい姿勢や運指を身に付け、タンギングや息遣いを工夫して演奏している。 ② 話合いや演奏で試した方法を生かして、意図する音色で演奏している。

6 学習と評価の計画（5時間取り扱い）

次	ねらい	主な学習活動	具体的評価規準
第1次 (2)	○ アルトリコーダーについて知識を深め、演奏への興味・関心を高めるとともに、基礎的な奏法を身に付ける。	○ アルトリコーダーの構造や演奏時の正しい姿勢、運指について知る。 ○ タンギングや息遣いなどの基礎的な奏法を身に付けるための練習を行う。	ウ ①
第2次 (3) 本時は 第2時	○ アルトリコーダーの美しい音色について知覚・感受し、それを表現するための奏法や身体の使い方を工夫して演奏する。	○ リコーダーのさまざまな演奏を鑑賞し、美しい音色とはどのようなものか考える。 ○ 美しい音色で表現するための方法をグループでの話合いや演奏から探る。 ○ グループごとに工夫した点を、演奏を交えて発表する。	イ ① イ ② ア ① ウ ②

7 本時の学習

(1) ねらい

- アルトリコーダーの音色について、知覚・感受したことを基に、息遣いや身体の使い方などのアルトリコーダーの特徴をとらえた表現の工夫をしている。

(2) 準備・資料

譜面台、楽譜、ワークシート、ヒントカード、掲示資料

(3) 展開

学習活動・内容	教師の働きかけ（◆学習活動における具体的評価規準）
1 練習曲「少年時代」「虹の彼方へ」を全員で演奏する。（一斉）	・生徒の表情を見ながら声かけをし、のびのびと演奏させるようにして、授業の雰囲気づくりをする。 ・机間指導をし、運指や演奏に自信のない生徒に声をかけたり、見本を示したりする。
2 既習の知識・技能を確認する。（一斉） ①リコーダーの構造 ②奏法（姿勢、身体の使い方、運指、息遣い）	・特に誤りやすい運指は、ワークシートに記入させて再度確認する。

<p>3 本時の課題を確認する。(一斉) <u>どう演奏したら美しい音色が出るか,探そう。</u></p> <p>4 美しい音色とはどのようなものか, 言葉で共有する。(一斉)</p> <p>5 グループで話合いや演奏を行い, 美しい音色で表現するための演奏の仕方を探す。(グループ)</p> <p>①高音では ②低音では ③息の強さは ④息の出し方や切り方は (タンギング) ⑤指の押さえ方は ⑥口の形やくわえ方は</p> <p>6 代表のグループが, 話し合ったことを演奏を交えて発表する。(一斉)</p> <p>7 本時の反省をワークシートに記入し, 次時の課題を確認する。(一斉)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を意識させ, 意欲的に取り組めるようにする。 ・前時の鑑賞で気付いたことを発表させる。 ・音色の特徴となるキーワード (「やわらかい」「はっきり」「なめらか」「ひびき」「まっすぐ」など) は黒板に掲示し, 次の話合いで役立てるように助言する。 ・グループごとに異なる着眼点を与え, 的を絞った話合いができるようにする。 ・着眼点とともに工夫のヒントとなるポイントも与え, 活動が滞らないようにする。 ・時には, 「よくない例」と比較して試してみてもよいことを伝える。 ◆美しい音色を出す方法を見つけようと, いろいろな演奏の仕方を試している。(イ ②) ・代表のグループの発表を手本に全員で演奏し, 演奏の仕方を確認する。 ・感想だけでなく, 分かったことや他のグループの発表から気付いたこともワークシートに記入させ, 次時の演奏でも生かせるようにする。 ・本時の取り組みを称賛し, 次時には全てのグループが話し合ったことや演奏の発表をすることを確認して, 意欲が高まるようにする。
--	---

8 観点別評価規準の生かし方

評価規準	評価方法・Cと判断される状況への働きかけ・Aと判断するキーワード
イ ② 美しい音色を出す方法を見付けようと, いろいろな演奏の仕方を試している。	<p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取り組みの様子やワークシートの記述, 演奏から見取る。 <p>【Cと判断される状況への働きかけ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発言や演奏を躊躇する生徒には, どんな答えでも間違いではないことを話し, 臆することなく発表するように助言したり, 音楽では, 理解したことを生かして「表現する」ことが重要であることを伝えたりする。 <p>【Aと判断するキーワード】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・根拠を示して ・何回も